年間授業計画

高等学校令和４年度（１学年用）教科　芸術　科目　音楽Ⅰ

教科：　芸術　科目：　音楽Ⅰ　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　A　組～　F　組

教科担当者：

使用教科書：　（　MOUSA1(教育芸術社)　）

教科　芸術　の目標：

【知識及び技能】　芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現する ための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることがで きるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

科目　音楽Ⅰ　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深める。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表す。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心 情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明 るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	「正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう」 歌うときの基本的な姿勢や呼吸、発声などの技能を身に付け、歌詞の内容を理解し、自己のイメージをもって曲想にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身につけ、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	「校歌」「AveMaria」「翼をください」など。 歌うときの姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して歌唱させる。 歌詞の内容を深く捉え、曲想との関わりを理解させる。 旋律の特徴や言葉の抑揚を理解させる。	○				【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	「ボディ・パーカッションや日用品でリズム合奏を楽しもう」 手拍子やボディ・パーカッション、唱歌、日用品などを用いて、リズムパターンを即興で変化させたりして、表現を創意工夫してリズム合奏する。	「PlymouthRock」「Clap、TapwithCUPS!」「ソルフェージュ」など。 リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏させる。 曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫させる。 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤させたり意見を交換させる。		○	○		【知識及び技能】曲想と楽器の音色やリズムとの関わりについて理解している。 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	「表現を工夫してギターを演奏しよう」 ギターの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	「第三の男のテーマ」ほか。 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けさせる。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解させる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫させる。				○	【知識及び技能】曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち、主体それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わ的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	「J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう」 J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、イメージをもって歌うとともに、自分や社会と音楽との関わりを考える	曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えさせる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫させる。	○			○	【知識及び技能】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
2学期	「音楽って何だろう?」 ふだんなにげなく接したり表現したりしている音楽についてあらためて考え、さまざまな音楽と音楽観を知る。 身の回りに聞こえるさまざまな音や現代音楽、宗教の音楽などを聴き、音楽とは何か、さまざまな音楽のあり方を学ぶ。	「ジョン・ケージ《4分33秒》」「アザーン」など。 身の回りのさまざまな音を聴いて、自分の考える音楽のイメージに当てはまるかどうかを考えさせる。 音楽の目的や、「音楽とは何か」を考えさせる。				○	【知識及び技能】音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	「『コード進行』をもとにメロディーや伴奏をつくろう」 多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解しさまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する。 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる。 反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける。 また、コードを読み取り伴奏をアレンジする。	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解させ、反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けさせるとともに、イメージをもって表現を工夫して創作させる。		○	○		【知識及び技能】音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能、及び旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能を身に付け、創作で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、旋律、テクスチュア、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	「日本や諸外国の歌曲に親しみ，表現を工夫して歌おう」 さまざまな言語による歌曲に親しみ，それぞれの特徴を理解するとともに，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，表現を工夫して歌う	「この道」「Hail Holy Quean」など。 曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わりを理解し，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して歌う	○	○		○	【知識及び技能】曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している 【思考力、判断力、表現力等】音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち，主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。				8
	「ベルでアンサンブルを楽しもう」 ベルの特徴を生かし、互いの音をよく聴き合ってアンサンブルするとともに、旋律に音を加えたり、リズムや拍子などを変化させたりして演奏する。	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、および音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現や創作表現を創意工夫する。		○	○	○	【知識及び技能】曲想と楽器の音色やリズムとの関わりについて理解している。 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、身体の使い方や他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、旋律、速度、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想と器楽の音色や奏法との関わりに関心をもち、主体それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わ的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。				10
3学期	「作曲家の生涯と作品をたどろう」 さまざまな時代の作曲家の生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う				○	【知識及び技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				2
	「発表会」 声や楽器を組み合わせて演奏したり、様々な音素材を用いた創作を通して、様々な技能を身につけより豊かなイメージをもって表現する。	声や楽器の音色、奏法、それらの組み合わせを生かしたアンサンブル活動。 様々な音素材による音楽づくり。	○	○	○		【知識及び技能】楽器の音色や奏法の特徴を生かした個性豊かな音楽表現をするための技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す雰囲気を理解し、表現意図をもって演奏する工夫をしている。 【学びに向かう力、人間性等】楽器の音色や奏法及び、それらの組み合わせの面白さに関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。				8
											合計 70